

りんご生育情報(9月号)

令和8年9月18日発行

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



1. 果実肥大状況

9月10日現在の「ふじ」の果実肥大状況は、タテ径80.9mm（平年比114%）、ヨコ径90.1mm（平年比114%）と平年より大きく推移しています。

表1 果実肥大調査結果（mm）

	タテ径	ヨコ径
本年	80.9	90.1
平年値	71.1	78.9
平年比	114%	114%

※東和町の測定値。

3. これから発生しやすい気象災害への対策について : 台風

🌀台風に対する技術対策🌀

【事前対策（台風接近前・直前）】

- ・ 事前収穫の徹底：収穫期を迎えた果実は、農薬の使用基準（散布後の経過日数）を必ず確認のうえ、できる限り事前に収穫します。
- ・ 樹体の固定・倒伏防止：主幹や主枝に支柱を立てて確実に固定します。倒れやすいわい性台樹や若木はトレリスや支柱へ強固に固定し、風揺れによる折損や落果を防ぎます。
- ・ 園地・施設の点検：排水溝を清掃して浸水に備えるとともに、防風網や施設の点検・補強を行います。

【事後対策（台風通過直後・復旧管理）】

- ・ 洗浄と病害予防散布：浸水等で果実・枝葉に泥が付着した場合は清水で洗い流します。風雨で損傷が生じた場合は、速やかに適切な殺菌剤を散布して病原菌の侵入を防ぎます。
- ・ 落果・被害果の速やかな処理：園地に落果した果実や傷果はそのまま放置せず、病害虫の発生や二次被害を防ぐために早めに拾い集めて処分の準備をします。
- ・ 倒木・被害枝の処理：倒木は根が乾く前に起こして支柱で支えます。枝の裂開部は接着・固定し、被害の著しい枝は切り落として切り口に塗布剤を塗り病菌の侵入を防止します。
- ・ 土壌管理：多量の土砂が堆積した場合は幹周辺の土砂を取り除き、乾いた後に耕耘して根の通気性を回復させます。

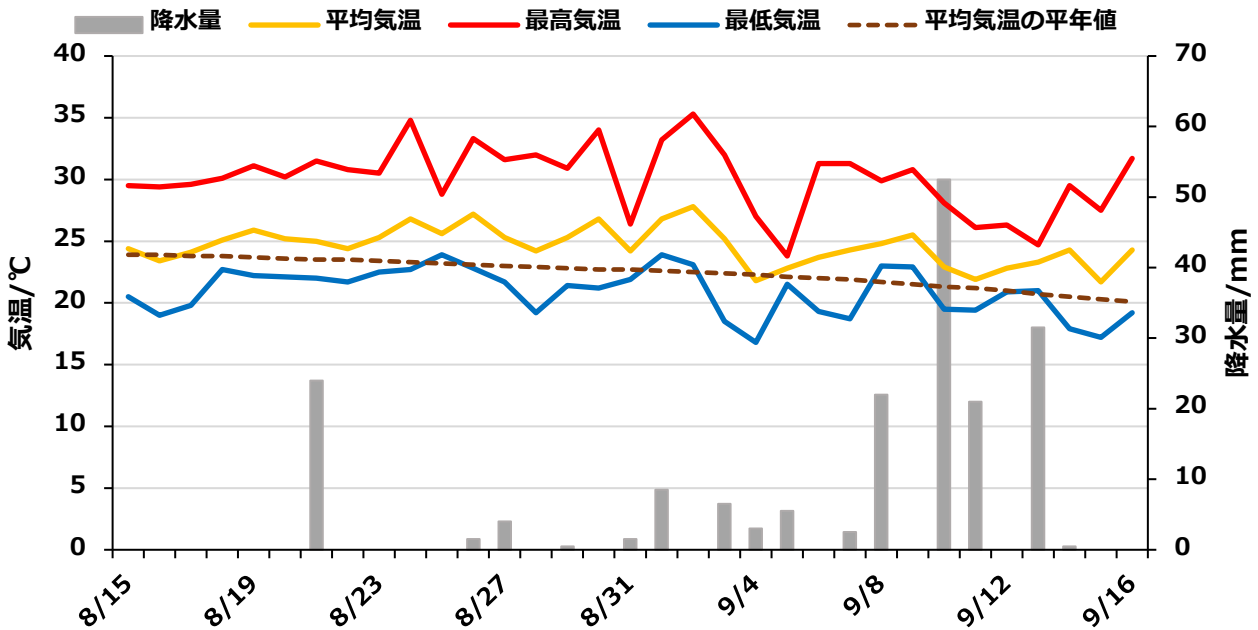


3. 気象の推移

8月15日から9月16日までの気温、降水量の推移は図1のとおりです。気温は、平年より高い日が続き、上記期間の平均気温の平年差は+2.2℃となり、ほとんどの日で平年値を上回りました。

りんごの肥大・着色期にあたるこの時期の高温は、着色不良や地色の進行を早める要因となります。見た目の色づきだけで収穫期を判断せず、果肉硬度や食味を踏まえた適期収穫が求められます。

図1 8月17日から9月16日の気温・降水量の推移（アメダス地点：米山）



トピックス～りんごの着色メカニズム～

- ・果実の赤色の着色 ⇒ 赤い色素であるアントシアニンが生成されることで起こる現象
- ・アントシアニンの生成

幼果期・・・どの品種でもアントシアニンが生成される

肥大生長期・・・アントシアニンの生成が減少

▼ 成 熟 期・・・赤色品種：生成が盛んになって真赤に色づく
黄色品種：生成量が少なく若干色づく程度

- ・アントシアニンを良く生成するための3つの基本条件

光：光の中でも着色に強く関与するのは紫外線である

温度：15～20℃が適温でアントシアニンがよく生成される

糖度：アントシアニンの素となるのはブドウ糖である



図2 着色のイメージ図

参考：「農業技術体系 果樹編 1 リンゴ」（農山漁村文化協会）

🍏 秋の農作業安全確認運動実施中 🍏 (9月1日~11月30日)

～スローガン「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」～

- ◆シートベルト、ヘルメット着用の徹底！
◆危険個所では原則、迂回を！

